

落とした部品を探しに行こう …こんな話し合いをしてみたら

公共の場であるバスの車内の風景を思い浮かべてください。

バスの運転手に、「ご苦労様」「ありがとう」と声をかける人が何人いるでしょうか。運転手から「ありがとうございます」と言われて、あなたは、どのような言葉を返しているでしょうか。もし、あなたが大人なら、その言葉の使い方を子どもに教えていますか。

作業1:あなたが運転手にかけている言葉・返している言葉を、カードに書いてください。



こんなバス(社会)に乗って、
私たちは、いったい、どこへ向
かっているのでしょうか？

「ありがとう」に対する「いいえ、どういたしまして」「いいえ、こちらこそ」といった受け答えの知識や技術は、社会を形作っていく大事な部品であると言えますが、今の社会からは、それが1つ、また1つと欠落していったような気がします。

そうした「落としてしまった部品」探しの必要性は、あなたの家庭や地域では、どのような状況にあるのでしょうか。部品が1つや2つ抜け落ちて、それでバスが壊れることはありません。しかし、3つ、4つ、5つと欠落していったらどうなるのでしょうか。

作業2:こころとコミュニティをメンテナンスしよう

自転車のタイヤの空気は抜けていませんか？
チェーンに油をさしていますか？
ブレーキはゆるんでいませんか？

タイヤの空気が抜けた自転車は、ペダルが重いです。無理してこぎ続けるのではなく、一旦自転車を降りて、空気を入れれば、驚くほどスムーズに走ります。

……そんなことをしている暇はない、ですって？

そうでしょうか。私たちは、一旦立ち止まり、こころとコミュニティのメンテナンスをすべきではないでしょうか。その方が、結果的に、楽に、安全に目的地に着くことができます。

「ありがとう」には「どういたしまして」と言葉を返すのだと子どもたちに教えることなく、何か別のものを要求しているようなことないでしょうか。その前にまず、「どういたしまして」「こちらこそ」という語彙を子どもに与え、家庭や地域でその言葉を使う練習をさせてあげることが必要です。そのようなことが、メンテナンスをするということの意味です。

まず、あなたの家庭(地域)が落としてしまった部品を列挙しましょう。その上で、どこをどのようにメンテナンスするのか話し合しましょう。話し合ったら、実行しましょう。